

グループ
2
ルブリケーション

ASTRON



概 要	2-2
オイル フィルタ・オイル ポンプ	2-4
オイル プレッシャススイッチ・ゲージ ユニット	2-5





概 要

概 要

■仕 様

項 目	仕 様	備 考
オイル ポンプ		
形 式	ギヤ式	デボネア
	トロコイド式	ジープ
駆動方式	チェーン	
リリーフバルブ開弁圧	3.5 ~ 4.5 kg/cm ²	
オイル フィルタ		
形 式	ろ紙, カートリッジ方式	
外径×長さ	90 × 80mm	
エンジン オイル量 (含, オイル フィルタ)	約 5.0 ℓ	

■締付トルク

単位: kgm

締 付 箇 所	ト ル ク	備 考
オイル スクリーン	1.5 ~ 2.2	
オイル ポンプ カバー	1 ~ 1.2	ギヤ式
	0.8 ~ 1	トロコイド式
オイル リリーフ バルブ プラグ	3 ~ 4.5	
オイル プレッシャ スイッチ 又は ゲージ ユニット	3 ~ 4	
オイル フィルタ	1.1 ~ 1.3	

■シール剤

部 品 名 称	シール剤名柄
オイル プレッシャ スイッチ 又は ゲージ ユニット	スーパー スリー ボンド No.10



■エンジン オイル

1. 指定エンジン オイル

エンジン オイルは、指定のAPI分類及び気温に応じた粘度のものを使用する。

指定オイル グレード (API分類)		SC 以上
指 定 エ ン ジ ン オ イ ル 粘 度	気 温	粘 度 (SAE)
	0~40°C	30
	-10~20°C	20W
	-10°C以上	20W-40
	-25°C以上	10W-40
	-25~40°C	10W-30
	10°C以下	* 5W-30

(* 5W-30は、北海道地区のみ)

2. エンジン オイルの点検, 補給

- (1) 車輛を水平な路面上に置く。
- (2) エンジン オイル量をオイル レベル ゲージで点検する。オイル量が下限になったときは1ℓ補給する。

----- 注 意 -----

- オイルを補給したときは、約1分後にオイル レベルを調べる。
- 補給するオイルは、使用中エンジン オイルと同種のオイルを補給すること。
- 長時間放置してあった車両のオイル量点検は、数分間エンジンを運転し、停止後しばらくしてから行うこと。

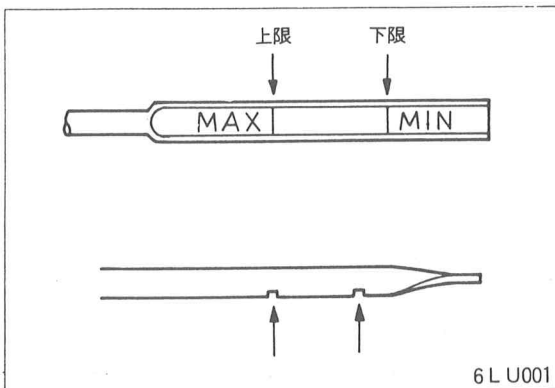


図1 オイル レベル ゲージ

3. エンジン オイルの交換

エンジン暖機後、ドレーン プラグを取りはずし、古いオイルを完全に排出する。つぎに、ドレーン プラグを締付け、オイル フィラより新しいエンジン オイルを給油する。

オイル バンドレーン プラグ締付けトルク：

6 ~ 8 kgm

オイル量：5.0 ℓ

(含む、オイル フィルタ 0.5 ℓ)

----- 注 意 -----

- エンジン オイル排出時、オイル フィルタ内のオイルはほとんど排出されないので、給油時には、その分をさし引いて給油すること。

■オイル フィルタ

1. オイル フィルタ 交換

- (1) 取りはずしは、市販のフィルタ レンチなどの工具を使用して行う。
- (2) 取付け時は、フィルタ ブラケット側の取付け面をきれいに清掃したのち、フィルタのOリングにエンジン オイルを薄く塗布してオイル フィルタを手で十分締付ける。(締付けトルク 1.1 ~ 1.3 kgm)

----- 注 意 -----

- Oリングがこじれないよう注意する。
- オイル フィルタは、レンチ等を使用して締付けてはならない。

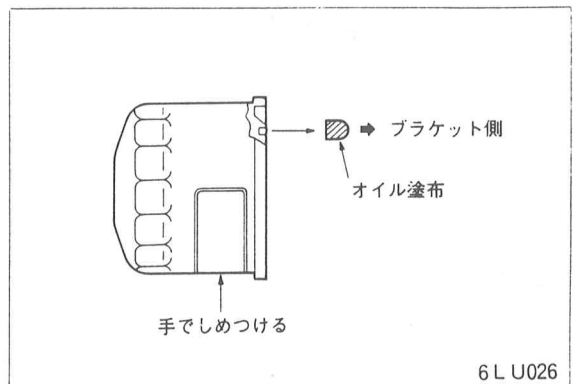


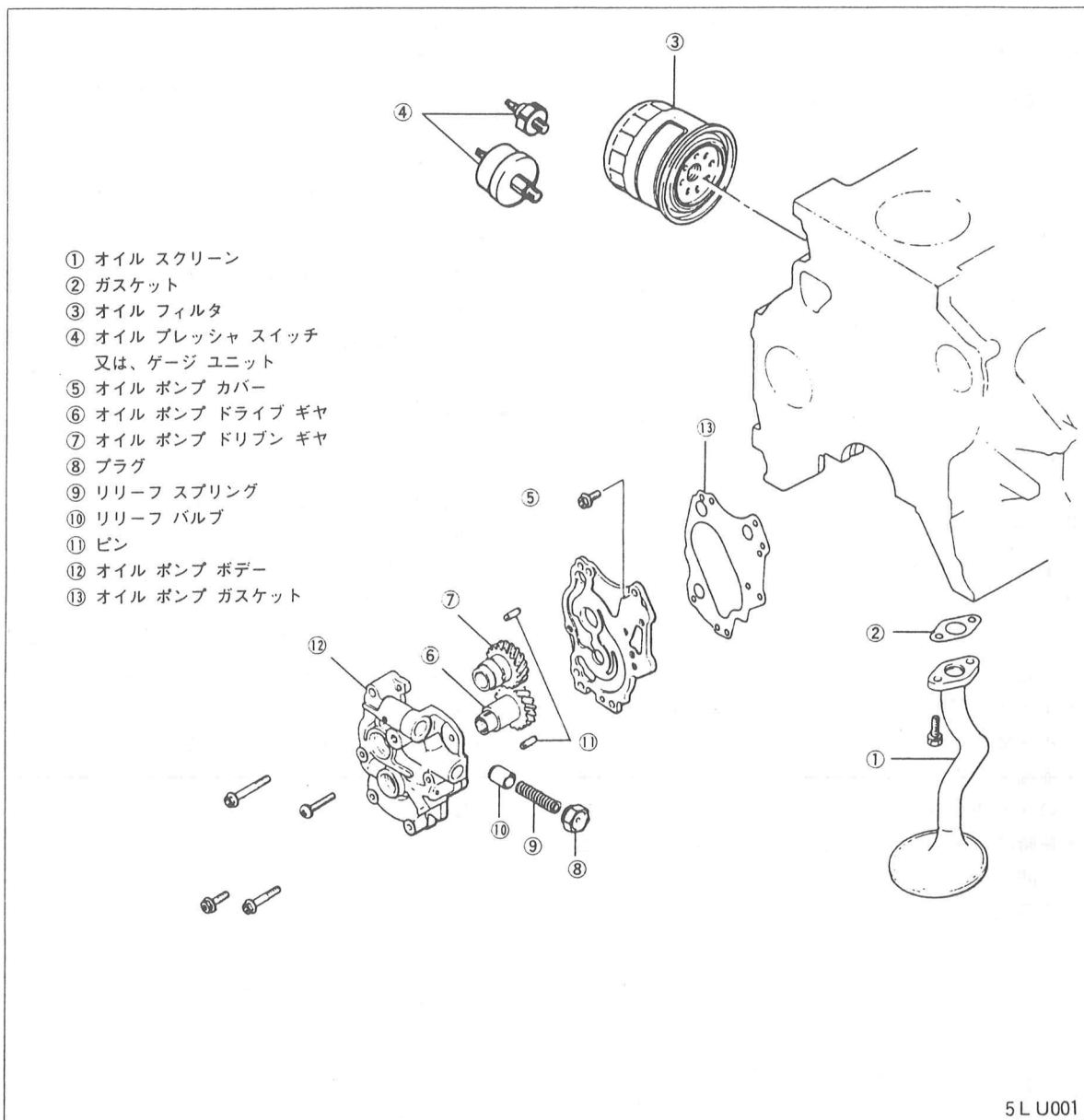
図2 オイル フィルタの取付け

- (3) 数分間エンジンを運転し、エンジン オイルのもれがないことを確認する。
- (4) エンジン停止後、オイルの量を点検し、必要ならば補給する。



オイル フィルタ・オイル ポンプ

■構成部品



5L U001

図1 オイル フィルタ、オイル ポンプ (ギヤ式オイル ポンプの場合)

- 注・オイル ポンプについては、グループ1.エンジン「サイレント シャフト・オイル ポンプ(デボネア)」又は「オイル ポンプ(ジープ)」を参照すること。
- オイル フィルタについては、前節を参照すること。

■点 検

1. オイル スクリーン

- オイル スクリーンの金網、パイプ部等の損傷 又は、き裂の有無を点検する。損傷のいちじるしいものは、交換する。



■取 付 け

- オイル スクリーンを取付けるときは、ガスケットを必ず入れること。ガスケットを忘れると空気を吸い込み、油圧低下又は、潤滑不良の原因となる。

オイル プレッシュャ スイッチ・ゲージ ユニット

■点 検

1. オイル プレッシュャ スイッチ (接点式)

- イグニッション スイッチを“ON”にしたとき、「油圧表示灯」が点灯し、エンジンを始動し、アイドル状態で消灯すれば正常である。
イグニッション スイッチ“ON”で「油圧表示灯」が点灯しないときは、スイッチ、表示灯 及び配線の良否を点検する。
- イグニッション スイッチを“ON”にしたとき、通電し、エンジン アイドル時、通電がなければ正常です。
スイッチが正常なときは、表示灯、配線について点検する。

回転速度上昇に伴い、ターミナルとスイッチ ボディ間の抵抗値が大きくなってゆけば正常です。スイッチが正常なときは、油圧計及び配線を点検する。

抵抗値： 19 Ω (0 kg/cm²のとき)
80 Ω (4 kg/cm²のとき)

3. オイル プレッシュャ ゲージ ユニット (バイメタル式)

- バイメタル式は、構造特性により、ON-OFF をくり返しながらか抵抗値が変化するため、抵抗値による測定点検はできない。
- 交流式電流計を使用すれば、電流の変化を測定点検することができる。

電流値： 0 mA (0 kg/cm²のとき)
84 mA (4 kg/cm²のとき)
110 mA (8 kg/cm²のとき)

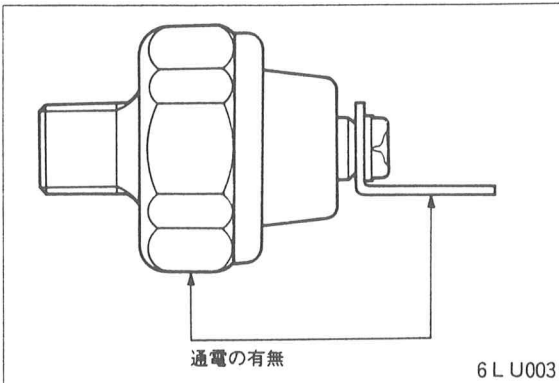


図1 スイッチ点検

■取 付 け

- ねじ部にシール剤 スーパー スリー ボンドNa10を塗布し取付ける。締めすぎにならないようにすること。
- 電気配線を接続する。

2. オイル プレッシュャ ゲージ ユニット (抵抗式)

- エンジン始動、アイドル状態で「油圧計」が0.8 kg/cm²以上をさしているか点検する。
- エンジン回転速度を徐々に上昇させる。このとき、「油圧計」指示も上昇すれば正常です。
- ゲージ ユニットのみを点検するときは、エンジン

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.